



第一地区公民館報まもなく100号!!

| | |
|-------------|---------|
| 平成31年1月1日現在 | |
| 世帯数 | : 793世帯 |
| 人口 | : 1476人 |
| 男 | : 713人 |
| 女 | : 763人 |

平成時代もいよいよ終わり、新しい元号に変わります。偶然ですが、この館報も節目を迎え、平成14年9月30日発行の第1号から、今年の3月30日号で100号目になります。現在は2カ月に一度の発行で、7名の編集委員と第一地区公民館長及び担当職員でチームを組んで作成しています。

地区内の行事の予定、その報告、また、地区内団体の紹介など、この地区の現況を伝える内容に加え、基本的にシリーズ記事を重視しています。例えば第一地区の「老舗」シリーズは、創業百年以上の老舗の歴史や現況などを書き残して、将来の街の歴史資料の参考になればいいなどの思いで編集しました。同じく、この地区の伝統行事、文化財などの詳細記事も取り上げてきました。編集委員の中に長く写真館を経営していた方もいて、第一地区の昔の街並み写真の特集も組みました。

前述の編集委員会のメンバーが、手分けしていろいろな記事を担当しています。多士済々の顔ぶれで、今後も充実した内容を目指したいと頑張っています。ちょっとした目を通していただければいいなと願っております。よろしく。



館報の思い出

木内 基裕



「電車通り」昭和30年以前に松本で生まれ育った方々には、優しく懐かしい響きではないでしょうか。松本駅の東側から出発した「ちんちん電車」は、駅前通りをあがたの森に向かって走

り、学校前（現イオンモール）を左折し終点は松本の奥座敷、浅間温泉でした。停留所で、チンチンと鐘を鳴らすので路面電車の愛称として親しまれていました。車社会の到来と共に昭和39年廃線となり惜しまれながらその姿を消しましたが、市民の大切な足でした。平成が終わろうとしている今、東京タワー、石原裕次郎、美空ひばり、東京オリンピック等、戦後の昭和のイメージを強く持ち続けている市民の方々も多いのではないのでしょうか。

中央西地区の再開発事業により、伊勢町は歩車道を広げ近代的商店街として生まれ変わり、Mウイングがシンボルとして完成、第一地区公民館も入りました。

館報第1号発刊にあたり、館報委員会でコラム欄に何か良いネーミングは無いかと話し合い、「電車通り」となりました。第一地区から半径1・5キロ以内に、松本城をはじめ、市民芸術館、美術館、あがたの森公園など主要施設がすべて入ります。松本を中心に住む市民としての誇りを持ち、次なる新しい時代にバトンタッチする責任があると感じています。

Presented by
視聴覚委員会

平成最後の年末年始、皆さんはいかがお過ごしでしたか。地区内でもさまざまな行事が行われました。

平成31年1月5日 (土)
松本市消防団出初式
(千歳橋・本町通り)



平成31年1月14日 (月)
本町・伊勢町・分銅町
三九郎 (女鳥羽川河川敷)

まちかどフォト



平成30年12月9日 (日)
J2優勝・J1昇格記念パレード
(信毎メディアガーデン前)



第一地区の

老舗をたぎわて

第四十五回:

おはきもの矢口本店

(中町1丁目)

1647 (正保4) 年、初代の矢口太郎作さんが、刀のつばから履物までお城で使う様々な雑貨を扱う商店として創業しました。

その後、徐々に履物に特化し、明治の大火で店を焼失しましたが、9代目栄作さん(1896年生まれ)は、木曾五木のひとつ「ねずこ」を材料とする下駄の製造卸業を軌道に乗せました。「ねずこ下駄」は最高級の「桐下駄」に比べると安価なうえ、軽くて履きやすいのでおしゃれ履きとして人気を博しました。多くの従業員を抱え、県内各地に自転車で配達に行くなど、繁盛しました。従業員には、希望があれば、惜しげもなくのれん分けをし、履物屋が増えていきました。栄作さんは、教育熱心な一面があり、子どもたちには高度な教育を受けさせたので、学問の世界に飛び立つ者もいて、大学教授、大学の学長なども輩出しました。

第2次世界大戦後、10代目

秀雄さん(1924生まれ)は、製造卸から小売りに商売を替えました。生活様式の変化から、下駄の販売はだんだん少なくなり、靴も扱うようになつていきました。11代目修一さん(65)は、靴屋に修業に行き、店を継いだ後も妻久江さん(60)と共に、順調な商売を続けました。



昭和初期頃の矢口本店

2009年、商店街の電線地中化や土蔵造りの街づくりもあり、中町に観光客が増え、矢口本店にも転機が訪れました。現在、店を切り盛りする12代目ひとみさん(33)は、再びねずこ下駄の販売に力を入れました。

下駄の本体と鼻緒を別々に販売し、その場で挿げるサンプラスを始めました。挿げる手間はかかるものの、自分だけのオリジナル下駄を作ることができ、若い世代や外国人に

りする12代目ひとみさん(33)は、再びねずこ下駄の販売に力を入れました。下駄の本体と鼻緒を別々に販売し、その場で挿げるサンプラスを始めました。挿げる手間はかかるものの、自分だけのオリジナル下駄を作ることができ、若い世代や外国人に

の鼻緒の挿げ替えやゴム付け、調整など修理も受け付けているとのこと。また、インターネットを通じて、ねずこ下駄の魅力を発信するなど、若い感覚で店を盛り上げています。販売以外でも、下駄や草履

の鼻緒の挿げ替えやゴム付け、調整など修理も受け付けているとのこと。また、インターネットを通じて、ねずこ下駄の魅力を発信するなど、若い感覚で店を盛り上げています。販売以外でも、下駄や草履



現在の店舗

居酒屋ひろば

以前より福祉ひろばや公民館行事に、男性の参加が少ないとの意見があり、この度「居酒屋ひろば」を福祉ひろば事業推進協議会と地区公民館共催で立ち上げることにしました。

第2回は福祉ひろば利用者の皆さんが調理されたおでんと参加者が持ち寄った各地の名酒とができました。まだ開店した

第2回は福祉ひろば利用者の皆さんが調理されたおでんと参加者が持ち寄った各地の名酒とができました。まだ開店した

第2回は福祉ひろば利用者の皆さんが調理されたおでんと参加者が持ち寄った各地の名酒とができました。まだ開店した

第2回は福祉ひろば利用者の皆さんが調理されたおでんと参加者が持ち寄った各地の名酒とができました。まだ開店した

第4回居酒屋ひろば
2月14日(木) 17:30~
ご参加おまちしています!



会長 伊藤 峯一

昨年もスポーツ界を称賛する話題が豊富でした。ちょっと記しますと、まずは平昌五輪でスピードスケートの小平奈緒選手の金・銀メダル獲得、マラソンで設楽悠太・大迫傑両選手の日本新記録樹立、大相撲で県内出身の関脇御嶽海の幕内優勝、アジア大会で池江璃花子選手の6冠と大会MVP、最近では卓球・バドミントン・テニスでも好成績を収め、フィギュアスケートでは新鋭の紀平梨花選手がGPファイナル制覇など。しかし何と言つてもサッカー松本山雅のJ2優勝、J1再昇格が身近なだけに最高でした。12月には、本町から大名町通りにかけてのパレードと報告会が催され、約5万人が祝福し大盛況でした。今年こそは国内最高峰リーグで活躍しぜひJ1に定着して欲しいものです。粘り強く勝ち抜き事により松本の経済も活性化します。来年は東京五輪です。また6年後には大阪万博も開催されます。我が国は資源に乏しく、そのうえ、平均的に体格、体力が劣るので経済もスポーツも知恵と技術力で勝負です。このような中、京大の本庶氏がノーベル賞を受賞したことは大変喜ばしいことです。

電車通り